名古屋丸の内ロータリークラブ Weekly Report

例会場　名古屋クレストンホテル　TEL　052-264-8000
例会日時　木曜日　12:30
クラブ会報広報委員長　立石ゆかり
HP　http://rc.nagoya-seinan.org/

2022-23年度RIテーマ
会長 シェカール・メータ
奉仕しよう みんなの人生を豊かにするため

承 認　1995.3.28
会 長　亀井 克典
幹 事　松尾雄二郎
事務局　名古屋市中区栄 3-29-1
名古屋クレストンホテル 1007 号
TEL　052-263-1324
FAX　052-263-0730
Email　seinan1@fancy.ocn.ne.jp

亀井克典会長 年度目標　：ポストコロナの時代に向けて、新たな親睦、交流、奉仕の活動をはじめよう

第1181回 例会　No. 18　令和4年3月3日　(木)	
■ﾛｰﾀﾘｰｿﾝｸﾞ	「君が代」「奉仕の理想」
■出席報告	会員44名中24名出席
■出席率	57.14%　出席計算人数42名
■ゲスト	米山奨学生リアンチャローンスック ウィーリンさん
(ZOOM参加)	グローバル奨学生　古谷由佳さん

会長挨拶　亀井克典

今日は、国際ロータリーからのウクライナ問題の声明が出まして、皆様のお手元にそれをプリントアウトさせていただいています。今日はそのウクライナのことを少し触れたいと思うのですが、私もウクライナという国を詳しく知らなかったので、色々と調べてみました。東ヨーロッパの国で面積は 60 万キロ平方メートルで、ヨーロッパではロシアに次いで 2 番目に大きい国だそうです。日本が 38 万ぐらいですので、日本の 2 倍近い国土を持っており人口が 4400 万人くらいということです、かなり大きな国です。ロシアが侵攻して制圧するとなるとかなりの軍事作戦になると思います。大半が肥沃な高原に覆われていて、非常に農業が盛んで、ロシアの穀倉と呼ばれているところです。また、石炭、鉄、マンガンなどの地下資源も豊富で、重化学工業も発達しているという国ですが、歴史を見てみると、内乱と外部からの侵入ということの繰り返しで、かなりの苦難の歴史がある国です。そういうことで色々な民族が入り混じってきたので、混血が進んで世界で一番美人が多い国だと言われております。ロシア革命後、ソビエト連邦に編入されたのですが、ソビエト連邦下でも多数の知識人や文化人、政治家が弾圧されたり、農業の集団化を強制されたことによって、1回大きな飢饉にみまわれて、400 万人から 1000 万人が亡くなったという話があります。第二次世界大戦でも、独ソ戦の主戦場になりまして、1000 万人前後の死者を出しているということで、非常に苦しい歴史のある国であると思いました。またソ連邦の 1988 年にご存知の通り、チェルノブイリの原発事故、これはウクライナにあるのですが、それを起こして、当時 220 万人が被害を受けたといわれています。

その後ソ連邦の崩壊とともに独立したのですが、皆さん報道でご存知の通り、親ロシア派と親欧米派の対立が続いてクリミア紛争があり、今日に至るということです。親ロシア派の国に強制的に変えようという意図で侵入したと思います。

声明文に書いてあるように、かなり踏み込んで書かれていますけれども、即時停戦と、ロシア軍の撤退と、対立を解消するための外交努力というのを呼び掛けています。国際ロータリーは人道支援団体ということですので、現在の状況に対して人道的立場からの救援物資等、支援を今後していくと宣言されています。今のところ 2760 地区で具体的な動きというのはありませんが、先程の理事会でもお話しをしましたが、ウクライナの人道支援の呼びかけがあった場合は丸の内 RC としても可能なことをやっていきたいと思っていますので、みなさんのご協力をいただきたいと思っています。

ニコBOX

●本日の卓話はZOOM参加にてグローバル奨学生で帰国された古谷由佳さんをお迎えしています。古谷さん、どうぞよろしくお願いいたします。
亀井会長、髙橋、岩田、堀江亮介、加藤、松尾、水野、河原、西川、立石、横田、田中、成田、田島、森田、武山、長谷川、大塚、川原、安江、今村、黒田(敬称略)

佐久間さん　ロータリーバッジを忘れてきました。申し訳ありません。

本日合計　52,000円

3月の祝福

誕生日		結婚記念日	
5日	成田勝彦さん	18日	安江さん
9日	長谷川さんご夫人		小野さん
17日	有沢さんご主人	23日	小菅さん
18日	山鳥さんご夫人	24日	森田さん
19日	小野さんご夫人		
28日	立石ゆかりさん		
30日	宮崎憲治さん		

◎理事会議事録は次号に掲載致します。

次年度地区委員会委嘱状伝達

下記の方に次年度地区委員会出向の移植伝達場をお渡しいたしました。

米山記念奨学副委員長　武山卓史さん

グローバル奨学生・平和フェロー副委員長　　田中　如以さん

出席表彰

下記の方々に出席表彰の記念品をお渡しいたしました。

２５か年　西川　博さん

１５か年　岩田　宏さん

５か年表彰　　加藤　豊さん

本日はお休みでしたが、

１０か年表彰　小菅　誠さんに記念品を郵送いたしました。

みさなま、おめでとうございます。

米山奨学金贈呈　及び　お別れの挨拶
リアンチャローンスック」　ウィーリンさん

米山奨学金３月分及びクラブからの卒業お祝いを亀井会長よりリアンチャローンスック　ウィーリンさんにお渡ししました。

≪お別れのご挨拶≫

本日は米山奨学生として、ここで発表することが最後になります。皆様、今まで大変お世話になりました。皆様に卒業の御礼を申し上げます。私は 2016 年 3 月 17 日に日本に来ました。今年は 6 年目です。その日、タイのバンコクから直接名古屋に着き、6 年間の留学生活が始まりました。 この 6 年間に、幸せと不幸、様々な経験をしてきました。 例えば、日本に来る前に、全く日本語がわかりませんでした。南山大学では留学生専用の日本語の授業がありますが、授業の進むスピードがとても速く漢字テスト、小テスト、まとめテストも沢山あります。授業の復習と宿題、次の日の授業の予習をしないといけないので、毎日 6、7 時間ぐらい勉強していました。土日も友達と遊べませんでした。さらに、日本にまだまだ慣れていなかったので、毎日緊張感が溢れていました。このような生活循環が１ヶ月ぐらい続けていて、もう限界になった時に母に電話したら、「どうする？タイに帰る？」と言われました。でも、今帰ったら、母が払ってくれた授業料とか飛行機代とか、この１ヶ月の努力が無駄になってしまうので、もう一回頑張ってみたいと決意して、母に「ううん、帰らない」と言いました。そのときは、私に

とって一番困難な時期で、正直に言いますと、日本が嫌いになった時期です。しかし、ある程度日本語力を身につけて、日本人の友たちができてから、日本での生活が好きになりました。しかし、大学院に入って同時にコロナが世界に広まったので、母がとても大変でした。私が一人暮らししてみたかったので、引っ越しましたが、その代金は母が全部払ってくれたので、申し訳なさすぎて、バイト頑張るからもう仕送り送らなくていいよと母に伝えました。その時に、まあなんとかなる一年生ってそんなに大変じゃないだろうと思っていましたが、実際には私の考えが甘かったです。大学院生には社会人の方が多いので、授業は大体夜です。なので朝バイトやって帰って課題やって、夜遅く授業に参加しないといけませんでした。そんな私の人生はロータリーと出会ってから変わり始めました。私はロータリーの奨学生になってから、生活費と授業料の問題が解決しました。正直に言いますと、研究する時間も、友達と遊ぶ時間も増えましたので、日本での生活がとても楽しいと感じるようになりました。それに、皆さんと一緒に例会、食事会に参加でき、皆さんが本当に優しくて、なんでも相談に乗って頂きました。そしてタイのことと日本のことを話したり、一度はカラオケに行ったりして、 とても楽しかったです。さらに、ロータリーのおかげで、韓国と中国の友達ができて、とても仲良くしているので、この３ヶ月で３回一緒にご飯食べに行きました。本当にロータリーの奨学生になれてよかったと思います。この１年間、皆さんのおかげで自分が成長したと感じます。それに、皆さんとコミュニケーションして、自分の日本語のレベルも上がったと感じます。将来、社会人になってから、日本とタイの架け橋となり、両国の友好の絆も一層深められるように、努力したいと思います。最後に、この１年間とても楽しかったです。皆様に、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。この１年間のこと、皆さんのこと、米山奨学生のこと、一生忘れられません。本当にありがとうございました。

グローバル奨学生帰国報告
古谷優佳さん

ロータリーグローバル補助金奨学生の古谷優佳です。グローバル補助金奨学生として 1 年間留学させていただいた経験について報告させていただきます。

私の専攻は発展途上国の教育開発です。特に社会経済的に不利な立場にある低所得者層出身者の子供や女子の教育などに関心があります。修士論文は「ケニアにおける子供の妊娠と初等・中等教育へのアクセスの批判的考察」を研究いたしました。私が海外の大学院を目指すまでですが、高校生の時にタイへ短期留学に行きました。その時タイの北部へ行ったのですが、そこで平日にもかかわらず学校へも行かず、家のレストランの経営を手伝っている子供たちを見て、発展途上国には教育を受けることが難しい子供たちがいると言うことを知り、大学では教育学を専攻しました。そこで発展途上国の教育開発に貢献できるよう目指しました。その後私は当時の先生に「教育開発について目指すのなら大学院に進学する必要がある」と、その際に奨学金制度があることを教えていただきました。リストをいただきましたが、その中にロータリーグローバル補助金奨学生があり、私のように国際協力を専攻する者で、特にロータリーの重点分野の「基本的教育と識字率向上」が専攻と合致していたので、応募させていただきました。一年間の留学スケジュールは、10 ヵ月間 2020 年の 9 月から 2021 年の 6 月まで留学し、秋学期春学期それぞれ 10 週間の授業があり、その間のクリスマス休暇やイースター休暇に、期末課題であるエッセイやレポートを書いて提出する必要があり、とても忙しい学校生活を送っていました。その後、2021 年 6 月から 10 月まで、日本の NGO ケニア事務所で子供の保護や教育の分野で、インターンシップとして活動いたしました。

私が大学院で学んだことですが、国際協力や開発について、専門的な分野を学ぶことができました。その中で特に私が印象に残っている講義は、「国際教育における量的分析」と言う授業です。この授業では研究スキルを実際に活用することができたと感じる経験でした。また、そのクラスには多様なバックグラウンドを持つ学生がたくさんいたので、途上国出身の学生やイギリス、アメリカ、日本以外の国の、様々な学生と学ぶ機会を得ました。また教授との関係性も日本とはかなり違い、距離が少し近く感じる事と授業の進め方、レポートの書き方等、生徒の自主性が尊重されているような気がしました。またイギリスならではの学術的視点として、アフリカ大陸を植民地支配していたと言う歴史があるので、その反省の視点から議論をすることがとても印象的でした。

私が留学していた間、ホストクラブの方と、どのように交流をしていたかと言いますと、2 ヶ月に 1 回程度の割合で、ホストクラブの定例会やイベントへ参加していました。残念ながら昨年、イギリスはロックダウンが長く続いていたので、直接皆様にお会いすることは難しかったのですが、常に私がどのように生活をしているか、不安な事はないかと言うことを連絡してサポートしてくださいました。また私がケニアへインターンシップに行く報告をしたところ、私が留学していたサセックスのエリアの有志のメンバーの方

が、ケニアの地域を長期的に支援している、イエローメンプロジェクトというのですが、そちらのミーティングにも参加させていただきました。先日 2760 地区の沓名ガバナーに、イエローメンプロジェクトの協力支援、医療保健の支援の一部をグローバル支援として承認していただきました。

続きまして、ケニアでインターンシップをしていたときの事について報告させていただきます。私は「未来のケニア」と言う社会的経済的に不利な立場にある子どもの支援をしている NGO で、2 つの事業に携わりました。1 つ目が個別教育支援事業で、ナイロビのイスラムの出身の子供や、軽犯罪を犯して、リハビリテーションスクールと言う少年院のようなところに入っていた経験のある子供たちが、学校に戻って通い続けることができるように奨学金を支援したり、ケニアの児童専門官と言う公務員の方、児童保護ボランティアの方と一緒に、支援をして学校に居続けることができる事業に携わってきました。

２つ目は、マチャコスと言う地域ですが、新型コロナウィルスの影響で、ケニアでは女子の早期妊娠が話題になっていたので、地元のファシリテーターの知識がある専門家の方をお招きして、三日間にわたって子供の発達や妊娠の予防の話、早期妊娠をしてしまった場合、どのような法的な処置をとればいいのかについて、研修を行っていました。またNGO法人職員として経験を積み、ケニアの銀行で職員の方のお給料の支払い、予算の管理なども経験しました。

これらのケニアのインターンでの経験を通して、私が 1 番大きかったなと思うことが、大学院で学んだ発展途上国の教育について、私が貢献したいと思っている事の昔の顔を見ることができたことにあります。また実際ケニアでの教育支援を経験し業務や生活を通して現状や課題について知ることができました。

また日本では当たり前のようにある、例えば食事、安全な生活環境が当たり前ではないと言うことをすごく感じました。発展途上国の教育に関して、キャリアを通してどのように企業貢献していくかを、とても考えるきっかけになりました。国際協力でのキャリアをスタートすることができました。実際に卒業してから挑戦できるキャリアのチャンスや幅が広がったと感じています。そしてロータリーと言う歴史ある財団のネットワークによって、留学生活というのがとても実のあるものになりました。

私自身がどのように変化をしたかと振り返ると、途上国の教育開発に携わりたいと言う思いがさらに強くなりました。そして国際社会で活躍していく上での専門性、国際教育における専門性、語彙力、海外で生活をしていく力ともに向上したと思います。

卒業の後の進路ですが、特に社会経済的に不利な立場にある子供たちを教育が受けられるようにしたいと言う思いが、さらに強くなりました。そのそのため将来的には、近い将来国際機関において教育専門官として働くことを目指したいと思います。

そのため進路としましては、神戸大学大学院国際協力研究科博士前期課程でより経済的なアプローチに特化して、教育の専門性を高めていきたいと思っています。将来的には世界銀行やユニセフなどで、女子教育や子供の保護など幅広い分野で、教育経済の専門性を活かして働いていきたいと思っています。最後になりますが、留学にあたり支援していただいた皆様に感謝いたします。これからは学友として留学に旅立つ奨学生の方々の支援をしていくことや、国際教育開発の実務者として国際社会の平和に貢献していくことを通して、これからもロータリーに関わっていきたいと思います。ご清聴いただきありがとうございました。

有志親睦懇談会報告

２月 17 日（木）18 時半より「川由」にて、新会員歓迎会を兼ねての親睦懇談会を開催いたしました。新会員歓迎対象のご出席者は、佐久間静憲さん、横田佳奈さん、石井　光さん、黒田覇太朗さん、小野素尊さんです。

ゲストに落語家の三遊亭とん馬師匠をお迎えしました。